
神と女神と人間と

Douke

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神と女神と人間と

【Nコード】

N9310Z

【作者名】

Douke

【あらすじ】

人と幻獣と呼ばれる、神から授かった生き物が一緒に生きている世界。そんな世界で暮らしている竹川亮一が、世界の真理を知ってしまう物語。

この作品は以前応募して即落とされた作品です（笑）それを少しずつ改良しながら出すので、更新は不定期です。

プロローグ

世界に、終わりはない。

世界を、終わらせることは出来ない。

たとえ人類がいなくなってしまうても、生命が無くなってしまっても、物という物が無くなってしまっても。再び新たな何かがまた生まれる。

世界は、永遠に循環していく。

たとえ世界が終わったとしても、それは終わりではなく、始まりなのだ。

完全なる世界の終わりはなく、完全なる世界の始まりはある。

それは、再構成と同じこと。それは、繰り返しと同じこと。

再構成されても、また世界は同じことを繰り返す。

だから世界は終わらずに、何度も滅びる。

そして再び生まれる。

しかし、生まれ変わることはない。

世界は、永遠に循環してしまうのだ。

その循環を変えられるというのなら、その繰り返しを壊せるというのなら。

その世界を、終わらせることが出来るというのなら。

それは世界を作る唯一無二の存在。それは世界を終わらせる唯一無二の存在。

神と女神しかないのだ。

パート1

リンゴーン……。

「う、ううん……」

外からなにやら大きな鐘の音が聞こえる。せつかくいい夢を見ていたのに、その鐘の音があまりにも大きかったため、目を覚ましてしまった。

それにしてもやけにぽかぽかと暖かい。まだ春に入ったばかりだというのに、この気持ちよい暖かさはなんなんだ。まったくもってけしからん。

まぶた 瞼を開けて見てみると、窓から直射日光が入ってきて、今寝ていたベット全体に当たっていた。なるほど、原因はこれか。

(……そついや、カーテン閉めないで寝たな)

日ざしはまぶしいが、まるで日向ごっこをしているみたいだ。いっそのことこのまま二度寝したいくらいだ。

だが時計を見ると、そろそろ家を出ないといけない時間になっていた。

ベットから出て、すっかり着慣れた制服に着替える。それと同時に学校に行く準備をする。

着替え終わった後、パンをフライパンで軽く焼いてその上にハムを乗せて、コップに水を入れて朝食を作る。これが俺のいつもの朝食だ。

普通の家庭なら親が作ってくれらるんだろうけど、残念ながら母は病気で死に、親父は仕事で家にいない。

そのせいか、すっかり家の家事なんか一人で出来るようになった。料理なんかも、朝飯は手抜きだが人並み程度には出来る。

朝飯を食べ終わったら、昼飯に食べる弁当を作り始める。といっても、握り飯を作るだけだが。

作り終われば、弁当を鞆の中に入れて、それを持って玄関に向か

う。そこには死んだ母の写真が飾ってある。

「じゃあ、行ってきます」

その写真に向けて俺は言つと、家を出る。こうして俺の一日が始まる。

まず家を出ると。

「言い訳が長い！」

「なんだよいきなり。お前がなんで遅れたのか理由を説明しろつて言ってきたから、せつかく起きてからの俺の行動を正直に言っただけなのに。しかも話の途中で遮りおさえやがって」

「その前に、なんでそんなにゆっくりと過おとごしてるのよ！」

「俺からしたら、これでも急いだほうなんだが……」

「それにあんたが聞こえてきた鐘の音つて、この学校の一時間目に鳴った音でしょ！」

「ああ。うるさくて、つい起きてしまった」

「ついじゃないでしょ、ついじゃ！ もっと早く起きなさいよ！」

俺の話が途切れてしまったが、まあいろいろと寄り道しながら家から学校に着いていた。

一時間目の時間に起きた俺、竹川亮一はいつも通り遅刻し、いつも通り先生に怒られて、いつも通り幼なじみの小口美野里にも説教をされていた。この流れはクラスの中ですでに定番となっている。

だからといって俺が反省するわけも無いのに、どうしてこの幼なじみは俺に説教をしたがるのだろうか

？ 毎日毎日飽きないのだろうか？

もちろん俺は慣れているので、美野里の説教を右から左へと聞き流している。えーつと、次の授業は歴史だっただけか。

「ちよつと聞いているの？」

「ああ。ちゃんと耳に入つて反対の耳から出てるから、安心しろ」

「そののどこに安心する要素があると言つたのよ！」

机をバンツ、と叩く美野里。手、痛くないのだろうか。

そんないつものやり取りしていると、一時限目が始まる鐘の音と共に先生が入ってきた。立っていた美野里は急いで席に戻っていったが、その際に『遅れてきたんだから、授業くらいちゃんと受けなさい』と目で訴えてきた。

残念だが美野里。俺は寝る気満々だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9310z/>

神と女神と人間と

2011年12月30日01時47分発行